

# 平成28年度明るい選挙啓発 ポスターコンクール優秀賞作品



相模原市立藤野北小学校2年  
山口美優



藤沢市立鵜沼小学校2年  
西野太雅



海老名市立有鹿小学校2年  
菅野咲希



函嶺白百合学園小学校4年  
山本柑花



相模原市立淵野辺東小学校5年  
内藤百夏



伊勢原市立竹園小学校5年  
深津光理



伊勢原市立伊勢原小学校6年  
石垣遙夏



伊勢原市立伊勢原小学校6年  
加藤優



伊勢原市立大田小学校6年  
冨樫星生



函嶺白百合学園小学校6年  
小野晏



伊勢原市立山王中学校1年  
高須信吾



伊勢原市立成瀬中学校1年  
遠藤秀悟



川崎市立宮崎中学校2年  
多々良麻衣



川崎市立宮崎中学校2年  
中島悠人



相模原市立相武台中学校2年  
金城春花



厚木市立厚木中学校3年  
高橋直希



海老名市立大谷中学校3年  
相田美咲



海老名市立柏ヶ谷中学校3年  
加藤陸



真鶴町立真鶴中学校3年  
朝倉湊奈



トキワ松学園高等学校1年  
中村仁美



県立神奈川工業高等学校2年  
西脇美和



川崎市立川崎総合科学高等学校2年  
野上愛菜



川崎市立川崎総合科学高等学校2年  
渡部明日美



県立深沢高等学校2年  
佐々木若奈



川崎市立川崎総合科学高等学校3年  
菅野美音



川崎市立中央支援学校高等部3年  
村田敏晴

## あらまし

「明るい選挙啓発ポスターコンクール」は、明るい選挙を推進するために、小学校・中学校・高等学校等の児童生徒の皆さんを対象に、毎年行われています。

今年もたくさんの応募があり、しかも力作ぞろいでした。そのため選考が難しく、審査員も審査に当たり大変苦労しました。応募された皆さん、御協力いただいた先生方に深く感謝します。

これからも、一人でも多くの皆さんが、政治や選挙に興味を持って、応募してくださることを期待しています。

## 応募状況

今年度は、239校から、2,891点の応募がありました。

学校	年度	24	25	26	27	28
小学校		1,562	1,645	1,500	1,709	1,523
中学校		931	1,140	816	1,088	1,283
高等学校		43	50	36	39	85
合計		2,536	2,835	2,352	2,836	2,891

## 審査結果

平成28年9月27日に行われた県の審査会において、小学生10名、中学生9名、高校生7名の計26名の方が優秀賞を受賞されたほか、小学生20名、中学生20名、高校生4名の計44名の方の作品が佳作となりました。

## 審査員

三浦 潤子（元神奈川県明るい選挙推進協議会監事）  
相馬 敏江（知事室広報デザインアドバイザー）  
橋井 香苗（神奈川県教育局指導部高校教育課主幹兼指導主事）  
神奈川県選挙管理委員会委員  
神奈川県選挙管理委員会書記長

## 審査講評

審査員代表 三浦 潤子

今年から国は、若者の投票率を上げるため、選挙権年齢を満18歳以上に引き下げました。少子高齢化が進む日本では、国の将来を担う若者の考えを、政治に反映させたいというねらいがあります。

この「明るい選挙」の啓発もその一端といえるでしょう。

かつて、一部のお金持ちや男性だけの選挙権であった時代、日本には自由平等や民主政治というものはありませんでした。一部の人に権力が集中する不公平で封建的な社会だったのです。せっかく手にした選挙権を大切にしたいものです。

さっそくですが、では、どんな選挙啓発ポスターを描けば良いのでしょうか。

一番大事なのは、そのポスターを見た人が「選挙に行くぞ!」と思うような「驚きのポスター」であることです。

そのための発想は、自分自身の感性で、今の日本社会をどうしたいのか問いかけ、日本の将来像を思い描きながら、世界とどうつながれば良いのか想像をふくらませてみることです。独創的なアイデアをたくさん考えることがおもしろい作品をつくる出発点です。

今年は、2,891点の応募があり、その中から小・中・高校合わせて26点を優秀作品として中央審査に出品しました。

審査の基準は、各学年の発達段階に配慮し、独自性のある新鮮な発想と、それを適切に表現する造形力、ポスターとしての注目度を見ながら選びました。

例えば、小野晏さん(小6)の作品は、一票の重さを力士の表情や形で見事に表現しています。遠藤秀悟さん(中1)の作品は、参勤交代と選挙を同意的な捉え方で表現し、ユニークなイラストで伝えようとしています。菅野美音さん(高3)の作品は、「その人に託す理由はたくさんある。」と日本社会の問題点を丁寧に拾い上げ、鋭く訴えかけています。知的で造形性の高い作品になりました。

このように、それぞれの思いが見る人にしっかり伝わるように工夫されたことに拍手を贈りたいと思います。来年も、さらに素晴らしい作品が集まることを期待しています。